

研究活動
乾 仁 志

| 著書、学術論文等の名称 | 単著 共著 の別 | 発行又 は発表 の年月 | 発行所、発表雑誌又 は発表学会等の名称 | 概 要 | 編者・著者名 (共著の場合 のみ記入) | 該当頁数 |
|------------------------------|----------------|-----------------------|---------------------------------|---|---------------------------|----------|
| (著書) | | | | | | |
| (学術論文) | | | | | | |
| 1. 田谷の洞窟における胎藏種子曼荼羅について | 単著 | 1979.12 (昭和54年12月) | 『密教文化』128、高野山大学密教研究会 | 横浜市戸塚区田谷町の定泉寺に、旧称「瑜伽洞」(通称「田谷の洞窟」)と呼ばれる人工の地底伽藍があり、その中に胎藏種子マンダラがある。このマンダラについては、従来マンダラを構成する種子と尊名が一致しないことが謎とされてきた。ここでは、このマンダラは普門と一門の折衷マンダラであることを指摘し、中世浄土信仰の影響を受けて、真言門の立場から阿弥陀仏の浄土思想を胎藏マンダラの中に巧に包摂したものであることを論じた。 | | 42-49頁 |
| 同 上 | 単著 | 1981.2 (昭和56年2月) | 吉田孝著『田谷の洞窟』鎌倉新書、所収(後、宗教工藝社より刊行) | | | 125-132頁 |
| 2. 聖衆来迎寺所蔵貝葉について | 単著 | 1982.3 (昭和57年3月) | 『密教学会報』21、高野山大学密教学科 | 大津の聖衆来迎寺に智証大師円珍によって請来されたという貝葉の断簡が伝わっている。この貝葉に記された梵文の内容については、その一部の内容に基づいて、従来は『金剛頂経』の異本、あるいは『金剛頂経』の金剛界品の一部と見なされてきた。ここでは、貝葉梵文の全体を調査対象とし、全文のローマナイズと和訳を付して、『金剛頂経』の本文そのものではなく、『金剛頂経』系統の儀軌の一種であること | | 1-15頁 |
| 3. 聖衆来迎寺所蔵貝葉について(二) | 単著 | 1983.3 (昭和58年3月) | 『印度学仏教学研究』31-2、日本印度学仏教学会 | 大津の聖衆来迎寺に伝わる智証大師円珍によって請来されたという貝葉の断簡の内容について、『金剛頂経』の金剛界品の一部と見なす説を訂正し、『金剛頂経』系統の儀軌の一種であることを論じ、さらにその後の調査結果を加え、この梵文内容に関係する経典儀軌について指摘したものである。 | | 134-135頁 |
| 4. Vajradhatumukhakhyaṇaについて | 単著 | 1984.3 (昭和59年3月) | 『印度学仏教学研究』32-2、日本印度学仏教学会 | 『ヴァジラダートムカーキヤーナ』というネパールに伝わる金剛界次第について調査し、この次第は、インドにおける瑜伽タントラの権威者の一人であるアーナンダガルバの『一切金剛出現』というマンダラ儀軌に基づくものであることを、内容項目に基づいて両者を比較し、その中でとくに特徴的な三種三摩地について詳しく論じたもの | | 166-167頁 |
| 5. 『初会金剛頂経』の菩薩観について | 単著 | 1986.3 (昭和61年3月) | 『日本仏教学会年報』51、日本仏教学会 | 本経に現れる「菩薩」という用語に注目してその使用例を分析し、「菩薩」あるいは「菩薩大士」に対して、「大菩薩」と表現されているところに、本経の菩薩観の特色が窺えることを指摘したものである。具体的には、釈尊の成道に範を取って記述されている五相成身観という成仏法の中における使用例について検討し、五相の第四段階で「菩薩」あるいは「菩薩大士」が「大菩薩」という表現に変わることを指摘し、この段階で菩薩は質的な変化を遂げることを本文の内容に即して論 | | 271-290頁 |
| 同 上 | 単著 | 1994.10 (平成6年10月) | 『密教大系 第三巻 密教経典』法蔵館 | | | 150-167頁 |
| 6. 『初会金剛頂経』における菩薩の出生について | 単著 | 1986.12 (昭和61年12月) | 『印度学仏教学研究』35-1、日本印度学仏教学会 | 本経の十六大菩薩の出生段における菩薩の出生過程について、インドにおける瑜伽タントラの権威者であるシャーキャミトラとアーナンダガルバの解釈を参考に分析したものである。具体的には菩薩の代表である金剛薩の出生段を取り上げ、その出生過程で「菩薩」という用語が、五相成身観とは逆に「大菩薩」から「菩薩」あるいは「菩薩大士」に変化する事例について | | 368-369頁 |

| | | | | | |
|--------------------------------------|----|------------------------|--------------------------|--|----------|
| 7. 毘盧遮那如来の〈四種神変〉について | 单著 | 1987. 3 (昭和62年3月) | 『密教学会報』26、高野山大学密教学科 | 『初会金剛頂経』の中で、五相成身観に続いて説かれている本文の一節について考察したものである。インド・チベットでは、如来は五相成身観によって成仏して後に四種神変を現わし、さらにその後、須弥山に降って瑜伽タントラを説いたと解釈されている。本稿では、この場合の四種神変が、本経のどの箇所に相当するものであるかをチベットの学匠であるプトンの指摘によって明らかにし、さらにその意味に | 1-17頁 |
| 8. Kriyasamgraha における本尊瑜伽-梵文テキスト-(I) | 单著 | 1988. 10 (昭和63年10月) | 『密教文化』163、高野山大学 | 『ヴァジラダートゥムカーキヤーナ』というネパールに伝わる金剛界次第は、その後の調査から、ネパール人のクラダックによって著された『クリヤーサンクラハ』の本尊瑜伽に基づくことが判明した。本稿は、この本尊瑜伽の冒頭部分の梵文テキストを提示して、『ヴァジラダートゥムカーキヤーナ』との類似関係を明らかにし、さらに『クリヤーサンクラハ』に関わる諸文献について報告したものである。 | 97-116頁 |
| 同上 | 单著 | 1989. 3 (平成元年3月) | 『堀内寛仁先生喜寿記念密教文化論集』高野山大学 | | 616-635頁 |
| 9. 仏説大乘観想曼荼羅淨諸惡趣経について | 单著 | 1989. 3 (平成元年3月) | 『印度学仏教学研究』37-2、日本印度学仏教学会 | 本経は、従来チベット訳に伝わる『惡趣淨軌』（九仏頂タントラ）の抄訳であると言われてきた。本稿では、まず本経の内容がチベット訳に伝わるアーナンダガルバの『一切惡趣淨曼荼羅儀軌』にはほぼ一致することを明らかにし、さらにチベットの学匠であるプトンの説に基づいて、『惡趣淨軌』（九仏頂タントラ）自体の成立に、アーナンダガルバの著作が関与している可能性のあることを指摘した。 | 829-834頁 |
| 10. Kriyasamgraha の本尊瑜伽-梵文テキスト(上) | 单著 | 1991. 3 (平成3年3月) | 『高野山大学密教文化研究所紀要』4 | インドにおける瑜伽タントラの権威者の一人であるアーナンダガルバの著した『一切金剛出現』というマンダラ儀軌には梵文写本が存在する。この梵文写本の存在について、かつて報告（口頭発表のみ）したことがあるが、その後他大学の研究者によってローマナイズされた。ただこの梵文写本には一部欠損箇所もある。本稿はアーナンダガルバのマンダラ儀軌に基づいて作成された『クリヤーサンクラハ』の本尊瑜伽の梵文テキストをローマ字文によって提示したものである。これによって、アーナンダガルバのマンダラ儀軌の欠損部分が幾つか補充される。 | 152-184頁 |
| 11. 同上-梵文テキスト(中) | 单著 | 1992. 3 (平成4年3月) | 『高野山大学密教文化研究所紀要』5 | 本稿はアーナンダガルバのマンダラ儀軌に基づいて作成された『クリヤーサンクラハ』の本尊瑜伽の梵文テキストをローマ字文によって提示したもので、前の同論稿の続編である。 | 133-160頁 |
| 12. バングラデシュの仏教遺跡-特に塔を中心として- | 单著 | 1993. 1 (平成5年1月) | 『高野山大学密教文化研究所紀要』6 | 密教はインド仏教の最末期に現れ、とくに西暦8世紀から12世紀にかけて、パーラ朝の支配下にあったベンガル地方やビハール地方を中心に栄えた。高野山大学は、このパーラ朝時代の密教の実態を調査すべく、平成3・4年に計3回にわたって、遺品・遺跡を中心にバングラデシュでの現地調査を実施した。本稿は、その学術調査に基づく報告書で、バングラデシュの仏教遺跡、十字形塔の流れ、密教における塔の位置について論述したものであ | 166-198頁 |
| 13. 金剛界曼荼羅と仏塔 | 单著 | 1993. 12 (平成5年12月) | 『印度学仏教学研究』42-1、日本印度学仏教学会 | 仏教に対する信仰が発展する上で仏塔信仰が果たしてきた役割は大きい。密教でも仏塔に対する信仰が受け継がれているが、本稿は金剛界マンダラの三昧耶会に画かれる仏塔の意義について考察したものである。ここではマンダラや如来を成立せしむる如来蔵としての金剛界という語の意味を通して、とくに菩提心思想との関係について論述した。 | 424-428頁 |
| 14. 金剛界曼荼羅の三昧耶会について | 单著 | 1993. 12 (平成5年12月) | 『密教図像』12、密教図像学会 | 『初会金剛頂経』の四大品には数多くのマンダラが説かれている。本稿はそれら四大品の各品に説かれている三昧耶会のマンダラを取り上げ、とくに四七品の中で最も中心的な位置にある | 15-29頁 |

| | | | | | |
|-----------------------------------|----|-----------------------|-------------------------------|--|----------|
| 15. Kriyasamgraha の本尊瑜伽一梵文テキスト(下) | 単著 | 1994. 3 (平成6年3月) | 『高野山大学密教文化研究所紀要』7 | 本稿はアーナンダガルバのマンダラ儀軌に基づいて作成された『クリヤーサンクラハ』の本尊瑜伽の梵文テキストをローマ文字によって提示したもので、前と同論稿の続編である。 | 91-112頁 |
| 16. 中国における『金剛頂経』伝承—『略出経』を中心として— | 単著 | 1994. 12 (平成6年12月) | 『高野山大学密教文化研究所紀要』8 | 中国に伝承された『金剛頂経』の実態について、『金剛頂経』の伝承を中国に最初に請来した金剛智三蔵の訳経に立ち返って検討したものである。本稿では、とくに経題および本文中に「金剛頂」という語が見出されないにもかかわらず、『真実撰経』(通称『初会金剛頂経』)何故『金剛頂経』と呼ばれるにいたったのかを解明し、さらに『金剛頂経』の名の由来について考察した。 | 1-27頁 |
| 17. 『初会金剛頂経』所説のマンダラについて(前) | 単著 | 1995. 12 (平成7年12月) | 『高野山大学密教文化研究所紀要』9 | 近年、チベットを中心にインド周辺地域の密教遺品の調査が進み、従来わが国に伝承されてきたもの以外にも多くのマンダラ遺品が存在することが報告されるようになった。本稿はそれらの報告を踏まえ、わが国でとくに注目されてきた金剛界マンダラの根本経典である本経に説かれるマンダラについて考察したものである。本経の四大品には、計28種のマンダラが説かれているが、ここではその中の金剛界品と降三世品に説かれる各六種マンダラについて | 133-158頁 |
| 18. Kriyasamgraha 所説の金剛界曼荼羅 | 単著 | 1995. 12 (平成7年12月) | 『印度学仏教学研究』44-1、日本印度学仏教学会 | ネパールのクラダッタによって著された『クリヤーサンクラハ』には金剛界マンダラについての記述がある。一つは尊形をもって描かれる大マンダラに相当するものであり、もう一つはシンボルをもって描かれる三昧耶マンダラに相当するものである。本稿では、そのうち本尊瑜伽段に説かれる大マンダラについて、尊名・身色等の項目に分けてマンダラ諸尊の性格を整理し、さらにアーナンダガルバのマンダラ儀軌との相違点について論述した。 | 342-346頁 |
| 19. 《一切如来真実撰経》的曼荼羅構成与特色 | 単著 | 1996. 2. (平成8年2月) | 『国際学術研討会論文集(二) 密教芸術』金色蓮花 | 本経の四大品には計28種のマンダラが説かれている。しかし、わが国に伝承されてきたマンダラとの関係で、金剛界マンダラについては、従来金剛界品に説かれる六種と、降三世品に説かれる二種のみに関心が払われ、他のマンダラについては十分に研究されてこなかった。本稿は、これら四大品に説かれるマンダラの構成、マンダラの様式、マンダラの種類、諸尊の構成について考察し、さらに四大品の組織概念について論述したものである。 | 1-14頁 |
| 20. 『初会金剛頂経』所説の四印について | 単著 | 1996. 3 (平成8年3月) | 『密教学研究』28、日本密教学会 | インドにおける密教の展開過程で、手で或るしぐさを示したり、或る持物の形を表現したりするムドラ—という印契法が発達した。密教ではそれによって特定の仏菩薩の精神や働きを象徴するようになった。本稿は、本経の金剛界品のマンダラ儀軌に説かれる大・三昧耶・法・羯磨という四種印のうち、とくに手印にかかわる各尊格の三昧耶印と羯磨印について考察したものである。 | 13-34頁 |
| 21. 『初会金剛頂経』の四大品とマンダラの特徴 | 単著 | 1996. 9 (平成8年9月) | 『高野山大学創立百十周年記念 高野山大学論文集』高野山大学 | 本経の四大品には計28種のマンダラが説かれている。しかし従来はわが国に伝承されてきたマンダラとの関係で、金剛界品の六種と降三世品の二種のみに関心が払われ、他のマンダラについては十分に紹介されてこなかった。本稿は図像学的な観点から、これら28種のマンダラを取り上げ、とくに四大品という枠組みの中で、それらがどのような特色をもっているかを指摘したものである。 | 81-100頁 |
| 22. 『初会金剛頂経』所説のマンダラ(後) | 単著 | 1997. 1 (平成9年1月) | 『高野山大学密教文化研究所紀要』10 | 本稿は、わが国でとくに注目されてきた金剛界マンダラの根本経典である本経に説かれるマンダラについて考察し | 233-260頁 |

| | | | | | |
|---|----|------------------------|------------------------------------|--|----------|
| 23. 『金剛頂タントラ』所説のマンダラ (1) | 単著 | 1997. 2 (平成9年2月) | 『高野山大学論叢』32 | たものである。本経の四本品には、計28種のマンダラが説かれているが、ここでは降三世品の残りの四種マンダラと遍調伏品と一切義成就品に説かれる各六種マンダラについて論述した。前の同論稿の続編である。 | 1-30頁 |
| 24. 『初会金剛頂経』の背景にある大乘仏教—如来蔵思想との関係を中心— | 単著 | 1998. 1 (平成10年1月) | 『高野山大学密教文化研究所紀要』11 | インドにおける『初会金剛頂経』の伝承過程で、その解釈に大きな影響を与えたものに『金剛頂タントラ』がある。マンダラ諸尊の部族組織について、前者は四部族の段階にとどまっておらず、五部族の組織は実質的に後者の段階で成立したものである。とくにその前半部には、前者の四部族のマンダラを統合した五部具会マンダラが説かれている。本稿は、その五部具会マンダラについて考察したものである。 | 204-222頁 |
| 25. 『初会金剛頂経』における利他の思想 | 単著 | 1999. 5 (平成11年5月) | 『日本仏教会年報』64、日本仏教学 | 大乗仏教は自利と利他の完成を修行の基本目標に置き、その特色は利他すなわち衆生済度を重視するところにある。密教もこのような大乗精神を基礎に置いている。本稿は、真言行者の基本的立場に関わる問題として、『初会金剛頂経』に説かれる如来出現の意義についてとくに取り上げたものである。具体的には、序文における教主の性格と、さらに流通分における世尊の成道場面を検討し、如来出現の意義として、利他の側面が強調されていることを明らかにした。 | 1-14頁 |
| 26. 『初会金剛頂経』の基本にある如来蔵思想 | 単著 | 2000. 1 (平成12年1月) | 『高野山大学密教文化研究所紀要別冊』 | 『初会金剛頂経』の如来蔵思想は『理趣経』の有情加持の法門の影響下にある。本稿では、まずこの問題について確認し、その上で阿闍梨に共通する如来蔵思想の源流について検討した。その中で、とくに『初会金剛頂経』の主要な内容が『華嚴経』入法界品と『宝積経』密迹金剛力士会から多くの素材を得ている事実を指摘し、『理趣経』および『初会金剛頂経』の如来蔵説の成立に、これらの経典が影響を与えていることについて考察した。 | 53-88頁 |
| 27. 五相成身観の基礎にある自性清浄心 | 単著 | 2000. 12 (平成12年12月) | 『高木神元博士古稀記念論集 仏教文化の諸相』山喜房佛書林 | 『真実撰経』に説かれる五相成身観の前半部を検討し、とくに如来蔵思想との関係を論じたものである。すなわち『真実撰経』は瑜伽行を重視している点からいえば、唯識派(瑜伽行派)の伝統を受け継いでいるが、その成仏思想の根拠そのものは、むしろ自性清浄心である如来蔵説に置かれると考えるべきであり、このことは『真実撰経』が「界」の概念を中核に置いていることから見ても首肯されることを指摘した。 | 329-344頁 |
| 28. 『初会金剛頂経』に関する覚え書 | 単著 | 2001. 2 (平成13年2月) | 『高野山大学論叢』36 | 本経の分量に関しては、中国の唐代に四千頌と伝えられてきたが、現存の梵字写本もほぼ四千頌である。このことから、唐代に伝えられた本経の実態が完成本に近いものであることを指摘した。また本経に付随する十万頌という広本の伝承もインドにおいて行なわれていたことが注釈において確認でき、チベットのニンマ派にも十八種の聖典の伝承があることから、中国に伝えられた十万頌あるいは十八会十万頌という広本の伝承も、それ自体はインドに起源があることを論じた。 | 1-28頁 |
| 29. 『初会金剛頂経』所説の四印について (3) —八供養女・四摂菩薩の三昧耶耶印— | 単著 | 2004. 1 (平成16年1月) | 『小野家幾澄博士古稀記念論文集 空海の思想と文化 (下)』ノンブル社 | インドにおける密教の展開過程で、手で或るしぐさを示したり、或る持物の形を表現したりするムドラ—という印契法が発達した。密教ではそれによって特定の仏菩薩の精神や働きを象徴するようになった。本稿は、本経の金剛界品の大マンダラ機軸に説かれる大・ | 109-125頁 |

| | | | | | |
|--------------------------------------|----|------------------------|---|--|----------|
| 30. 『初会金剛頂経』所説の四印について(2)―十六大菩薩の三昧耶印― | 単著 | 2004. 6 (平成16年6月) | 『佛教文化学会十周年・北條登三博士古稀記念論文集 インド学諸思想とその周延』山喜房佛書林 | 三昧耶・法・羯磨という四種印のうち、とくに八供養女・四摂菩薩の三昧耶印について考察したものである。 インドにおける密教の展開過程で、手で成るしぐさを示したり、或る持物の形を表現したりするムドラーという印契法が発達した。密教ではそれによって特定の仏菩薩の精神や働きを象徴するようになった。本稿は、本經の金剛界品の大マンドラ儀軌に説かれる大・三昧耶・法・羯磨という四種印のうち、とくに十六大菩薩の三昧耶印について考察したものである。 | 244-261頁 |
| 31. 漢訳経軌に見える入智 | 単著 | 2005. 11 (平成17年11月) | 『頼富本宏博士還暦記念論文集 マンドラの諸相と文化 上―金剛界の巻』法蔵館 | 『初会金剛頂経』である『真実撰経』に導入された重要な修法の一つに阿尾捨法がある。これは一種の降神術で、今日いうところのシャーマニズム的要素をもつものである。金剛界法に見える入智は、この阿尾捨法を応用して、金剛杵によって象徴される如来の堅固な智慧を導入する修法である。本稿は漢訳資料に見える入智について、その印ならびに観想の内容によって三類に分かれることを指摘したものである。 | 183-198頁 |
| 32. 『理趣経』の成立に関する一考察 | 単著 | 2005. 12 (平成17年12月) | 静慈圓編『弘法大師空海と唐代密教―弘法大師入唐千二百年記念論文集―』法蔵 | 『理趣経』には十類本が存在するが、内容および分量から、これらは略本7本と広本3本に分けられる。しかしこれら十類本の成立過程については、現在でも学者の見解が分かれている。本稿では、ジニャーナミトラの注釈を取り上げ、これまで問題になってきた「吉祥最勝」が『理趣経』の略本の原初的な形を有すること、またその梵語は「Sriparama」が妥当であることを指摘した。したがって、「吉祥最勝」は「般若経の一種」であるとともに、略本にとつては「原本」に相当し、具体的には玄奘訳『理趣分』のような内容をもつべきである。 | 245-274頁 |
| 関于『理趣経』形成的考察 | 単著 | 2005. 12 (平成17年12月) | 韓昇主編『古代中国：東亜世界的内交流』復旦大学出版社 | 上記の中国語訳(劉建英氏の訳)。ただし上記の日本語では少し文章を増広した。 | 146-166頁 |
| 33. 弘法大師の两部思想 | 単著 | 2007. 12 (平成19年12月) | 『加藤精一博士古稀記念論文集 真言密教と日本文化(上)』ノンブル社 | 弘法大師の两部思想については、現在もこれを两部不二思想として解釈する傾向が強い。近年、弘法大師の思想は两部不二思想ではないことを指摘する学者も現れたのにも拘わらず、研究者の間ではこの点が十分に認識されてこなかった。本稿は弘法大師の思想を两部不二と捉えるべきでないことを、中国密教に対する最近の研究成果を取り上げながら、新たに論じたものである。必ずしも筆者のオリジナルな学説ではないが、現在でもなお两部不二と解釈する研究者が多いことから、两部不二ではないと指摘する学説を補充する意図をもって発表したものである。 | 95-109頁 |
| 34. Kukai's Theory of Ryobu | 単著 | 2008. 3 (平成20年3月) | <i>"Esoteric Buddhist Studies: Identity in Diversity, Proceedings of the International Conference on Esoteric Buddhist Studies, Koyasan University, 5 Sept. -8 Sept. 2006"</i> , Koyasan University | 本稿は前項の論文「弘法大師の两部思想」と同じく、弘法大師の思想を两部不二と捉えるべきでないことを、中国密教に対する最近の研究成果を取り上げながら、新たに論じたものである。国際学会を通じて、外国の研究者にも紹介することを目的としたもので、必ずしも筆者のオリジナルな学説ではないが、两部不二ではないと指摘する学説を補充する意図をもって発表した。 | 31-34頁 |
| 35. 弘法大師の伝える四種曼荼羅 | 単著 | 2008. 6 (平成20年6月) | 『空海研究』第四集、空海研究会 | 弘法大師の『即身成仏義』には四種曼荼羅の考え方は『大日経』にも『金剛頂経』にも見えるとされているが、四種曼荼羅自体は『金剛頂経』において成立した説であることを指摘し、さらに大師の解釈の直接的な典拠は空訳の『理趣釈』と『都部陀羅尼目』にあることを述べ、そこに見える四種曼荼羅の解釈は、『金剛頂経』の説をそのまま採用されているのではなく、『大日経』の説と折衷した形に内容が改められていることを指摘した。 | 130-145頁 |
| 36. 金剛界マンドラを通して | 単著 | 2008. 7 | 『日本仏教学会年 | 本稿では金剛界マンドラを取り上げ、 | 125-138頁 |

| | | | | |
|---|--------------------------|---------------------------------------|---|----------|
| 見た密教の特色—特に金剛鈴菩薩を中心として— | (平成20年7月) | 報』73、日本仏教学 | 密教における修法上の特色について指摘した。修法上の特色というのは、阿尾捨法という降神術が取り入れられている点である。しかし、行者に乗り移るのは如来の智慧である。つまり降神術としての阿尾捨法が、『金剛頂経』において行者を悟りに導く瑜伽法やさらに灌頂儀礼に取り入れられ、より発達した修法に展開したということである。そしてこのような智慧の導入を基本とする阿尾捨法の実践が、金剛界マンドラの金剛鈴菩薩の特質になっていることを指摘した。 | |
| (その他) | | | | |
| 1. 〈書評〉前田崇著『蔵梵漢対照初会金剛頂経索引』(国書刊行会) | 単著 1987. 3 (昭和62年3月) | 『密教学研究』19、日本密教学会 | | 89-96頁 |
| 2. 恩師堀内寛仁先生 | 単著 1989. 3 (平成元年3月) | 『思い出の記—堀内寛仁先生の素顔と業績—』高野山大学 | | |
| 3. Bibliography of Studies on Kobo Daishi and Shingon Buddhism in Western Languages | 単著 1990. 1 (平成2年1月) | 『高野山大学密教文化研究所紀要別冊』 | | 141-183頁 |
| 4. 〈書評〉宮坂有勝・福田亮成共著『仏教講座16 理趣経』(大蔵出版) | 単著 1991. 3 (平成3年3月) | 『密教学研究』23、日本密教学会 | | 204-208頁 |
| 5. バングラデシュの仏教遺跡と遺品(上) | 単著 1992. 5 (平成4年5月) | 『中外日報』24698 | | 1頁目 |
| 6. バングラデシュの仏教遺跡と遺品(下) | 単著 1992. 5 (平成4年5月) | 『中外日報』24699 | | 1頁目 |
| 7. 万燈会願文について | 単著 1992. 10 (平成4年10月) | 『高野山時報』2636 | | 4-5頁 |
| 8. 十字形のモチーフ—バングラデシュの仏教遺跡 | 単著 1992. 11 (平成4年11月) | 『高野山時報』2641 | | 2-4頁 |
| 9. 小川ゼミと仏教思想研究会 | 単著 1993. 1 (平成5年1月) | 小川美彦訳『ジュイムス・ジョイス『ユリシーズ 第十四挿話』新訳』五月書房 | | 224-231頁 |
| 10. バングラデシュ密教学術調査(前編) | 単著 1993. 5 (平成5年5月) | 『高野山時報』2656 | | 2-4頁 |
| 11. バングラデシュ密教学術調査(後編) | 単著 1993. 6 (平成5年6月) | 『高野山時報』2659 | | 2-4頁 |
| 12. 金剛頂経の参考文献—理趣経を含む— | 単著 1994. 3 (平成6年3月) | 『密教学会報』33、高野山大学密教学科 | | 44-59頁 |
| 13. 『密教大系 第三巻 密教経典』(共解説、松長有慶) | 共著 1994. 10 (平成6年10月) | 『密教大系 第三巻 密教経典』法蔵館 | 松長有慶 | 439-454頁 |
| 14. 密教の主要経典2 『金剛頂経』 | 単著 1995. 11 (平成7年11月) | 『密教を知るためのブックガイド』法蔵 | | 67-86頁 |
| 15. <新刊紹介>松長有慶編『密教を知るためのガイドブック』法蔵館 | 単著 1996. 1 (平成8年1月) | 『仏教タイムス』1743 | | 9頁 |
| 16. 金剛界マンドラの図像学的研究 | 単著 1997. 3 (平成9年3月) | 平成7・8年度文部省科学研究費補助金(基礎研究(C)(2))研究成果報告書 | | 1-114頁 |
| 17. 堀内先生に導かれて | 単著 1997. 6 (平成9年6月) | 『高野山時報』2785 | | 5-6頁 |
| 18. <新刊紹介>田中公明著『性と死の密教』春秋社 | 単著 1998. 3 (平成10年3月) | 『密教学研究』30、日本密教学会 | | 195-204頁 |
| 19. 『金剛頂経』の概要 | 単著 2000. 4 (平成12年4月) | 平成11年度真言宗教学大会第35回高野山安居会『講義録』 | | 1-121頁 |
| 20. 大乘仏教から密教へ—三密行の思想的源流— | 単著 2000. 7 (平成12年7月) | 『大法輪』67-7、大法輪閣 | | 106-109頁 |
| 大乘仏教と密教 | 単著 2001. 9 | 『仏教思想を読む— | | 212-218頁 |

| | | | | | | |
|--|----|------------------------|--|---|------|--------------------|
| | | | (平成13年9月) | 仏教の基本を知るために一』大法輪閣 | | |
| 21. 『庭儀灌頂行事手鏡』 | 共著 | 2000. 9 (平成12年9月) | 学修灌頂塔元 | | | 1-4頁 1-146頁 |
| 22. 金剛頂経(解説)・瑜祇経(解説) | 単著 | 2001. 6 (平成13年6月) | 『仏典入門事典』永田文昌堂 | | | 159頁 160頁 |
| 23. 『中院流四度口決』 | 単著 | 2003. 1 (平成15年1月) | 中西啓實 | | | 1-204頁 |
| 24. 金剛頂経 国訳・解説・注 | 単著 | 2004. 2 (平成16年2月) | 『新国訳大藏経 金剛頂経・理趣経他』(密教部4) 大藏出版 | | | 9-102頁 397-432頁 |
| 25. 阿尾捨考 | 単著 | 2004. 2 (平成16年2月) | 『高野山時報』第2998号 | | | 6-7頁 |
| 26. <新刊紹介>松本俊彰著『慈雲流 悉曇梵字入門(基礎編)』高野山出版社 | 単著 | 2004. 3 (平成16年3月) | 『中外日報』第26583号 | | | 6頁 |
| 27. マンダラの眞想と儀礼(高野山大学夏季生涯学習講座in高野山2004) | 単著 | 2004. 8 (平成16年8月) | 高野山大学 | | | 1-125頁 |
| 28. 観智院蔵『蓮華部心念誦儀軌』二巻本の翻刻(上) | 単著 | 2004. 12 (平成16年12月) | 『密教文化』213、密教研究会 | | | 20-59頁 |
| 29. 観智院蔵『蓮華部心念誦儀軌』二巻本の翻刻(下) | 単著 | 2005. 12 (平成17年12月) | 『密教文化』215、密教研究会 | | | 55-80頁 |
| 30. 真言宗教相全書 第五巻 金剛頂経 上 | 共著 | 2006. 2 (平成18年2月) | 四季社 | 宮坂宥勝 | | 246頁 |
| 31. 真言宗教相全書 第六巻 金剛頂経 中 | 共著 | 2006. 4 (平成18年4月) | 四季社 | 宮坂宥勝 | | 236頁 |
| 32. 真言宗教相全書 第七巻 金剛頂経 下 | 共著 | 2006. 5 (平成18年5月) | 四季社 | 宮坂宥勝 | | 273頁 |
| 33. 真言宗のお経 | 単著 | 2006. 9 (平成18年9月) | 『高野山大学選書』第3巻、小学館スクウェア | | | 64-79頁 |
| 34. わが身にひきあてて | 単著 | 2007. 6 (平成19年6月) | 『人権講話集「絆」』1、高野山大 | | | 14-18頁 |
| 35. 高祖弘法大師御詠歌第一番のこと | 単著 | 2008. 2 (平成20年2月) | 『高野山時報』第3126号 | | | 6-7頁 |
| 36. マンダラが語るもの | 単著 | 2009. 3 (平成21年3月) | 『平成二十年度高野山教師布教研修会講演録 マンダラへその命にかえる〜』高野山本山布教師会 | | | 14-63頁 |
| 37. 静先生の思い出 | 単著 | 2009. 3 (平成21年3月) | 『密教学会報』46・47合併号 | | | 79-84頁 |
| 同 | 単著 | 2009. 2 (平成21年2月) | 『静慈園先生蘭契録』高野山大学密教学科 | | | 79-84頁 |
| 38. 授戒の葉(改訂増補版) | 単著 | 2009. 4 (平成21年4月) | 高野山専修学院 | 隆蓮和上口授・井上俊泉筆記「授戒の葉」(真別処)の文体を現代文に改め、新たに語注を加える。 | | 1-37頁 |
| 39. 日本の大切な文化財を知る | 単著 | 2009. 8 (平成21年8月) | 『高野山教報』1451 | 「高野山大学の人間教育」シリーズ | | 6-7頁 |
| 40. 師を持つことの意味 | 共著 | 2010. 1 (平成22年1月) | 『高野山教報』14?? | 「高野山大学の人間教育」シリーズ | 山脇雅夫 | 6-7頁 |
| 41. 空海の生涯とその教え | 単著 | 2010. 3 (平成22年3月) | 『大法輪』77-3、大法輪閣 | | | 98-103頁 |

| 学会等および社会における主な活動 | | 乾 |
|--------------------------------------|--|---|
| (学会等) | | |
| 2003. 7~2005. 8 (平成15年7月~平成17年8月) | 密教研究会幹事 (事務局、高野山大学) | |
| 2009. 7~ (平成21年7月~) | 密教研究会幹事 (事務局、高野山大学) | |
| 2006. 5~2009. 3 (平成18年5月~平成21年3月) | 和歌山県小中一貫教育モデル校事業有識者評価委員会委員 | |
| 2009. 4~ (平成21年4月~) | 日本仏教学会理事 (高野山大学) | |
| 2009. 4~ (平成21年4月~) | 日本印度学仏教学会評議員 (高野山大学) | |
| | | |
| (学外講演) | | |
| 1998. 10 (平成10年10月) | 高野山真言宗大分支所主催教学講習「理趣経について」 於大分県別府市 | |
| 1999. 7(平成11年7月) | 真言宗教学大会第十三回安居会「金剛頂経の概要」 於高野山 | |
| 1999. 11 (平成11年11月) | 高野山真言宗岡山県備中支所下真和会主催教学講習 「金剛頂経を学ぶ」 於岡山県笠岡市 | |
| 2000. 10. 11 (平成12年10月11日) | 高野山真言宗北海道支所「理趣経の解説—さとりの 秘密—」 於北海道旭川市 | |
| 2001. 11(平成13年11月) | 高野山ロータリクラブ「理趣経のはなし」 於高野山 | |
| 2002. 11(平成14年11月) | 高野山真言宗神奈川支所「三教指帰」 於神奈川県横浜市 | |
| 2008. 6(平成20年6月) | 高野山布教師会「マンダラが語るもの」於高野山東京別院 | |
| 2009. 8 (平成21年8月) | 高野山大学夏季セミナー「金剛界マンダラと四面大日 如来」 於高野山大学 | |
| 2010. 8 (平成22年8月) | 高野山大学夏季セミナー「マンダラ入門—その特徴を 学ぶ—」 於高野山大学 | |
| 2010. 10(平成22年10月) | 高野山学「曼荼羅とその教え」 於高野山大学 | |
| 2010. 10 (平成22年10月) | 第34回人文・社会科学系学長懇談会 「高野山の歴史 と文化」 於 高野山 遍照光院 | |
| | | |
| (学外講義) | | |
| 2000~2002, (平成12年~平成13年) | 高野山真別処出講 | |
| 2004~2007(平成16年~平成19年) | 「密教概論」集中講義 (8月初旬) | |
| 1987. 4~1996. 3, (昭和62年4月~平成8年3月) | 高野山専修学院出講 | |
| 1998. 4~ (平成10年4月~) | 「三教指帰」 (講読) 1987. 4~1996. 3、1998. 4~2002. 3 「十卷章」 (素読) 2002. 4~2006. 3 「密教概要」 2007. 4~2009. 3 「伝統教学」 2007. 4~ | |
| 2007. 5月(平成19年5月) | 高野山真言宗 第26回阿字観指導者要請講習会 (前期) | |
| 2008. 5月・9月(平成20年5月・9月) | 高野山真言宗 第27回阿字観指導者要請講習会 (前期・後期) | |

| | |
|--------------------------|--|
| 2009. 5月・9月 (平成21年5月・9月) | 高野山真言宗 第28回阿字観指導者要請講習会 (前期・後期) |
| 2010. 5月・9月 (平成22年5月・9月) | 高野山真言宗 第28回阿字観指導者要請講習会 (前期・後期) |
| 2010. 4月 (平成22年4月) | 京都・宗教系大学連合 (K-GURS) リレー講義「弘法大師の精神による人間と環境の共存共生」 於大谷大学 |
| 大学行政への係わり (所属委員会) | |
| 平成13年度 (2001年) | 学生部協議会 教務委員会 教職課程委員会 自己点検運営委員会 将来構想検討委員会 別科主事 |
| 平成14年度 (2002年) | 将来構想検討委員会 教務委員会 別科主事 教職課程担当者会議 学生部協議会 |
| 平成15年度 (2003年) | 人権問題防止対策委員会 教務委員会 教職課程担当者会議 FD問題検討委員会 学生部協議会 別科主事 |
| 平成16年度 (2004年) | 人権問題防止対策委員会 教務委員会 教職課程担当者会議 FD問題検討委員会 学生募集対策委員会 別科主事 密教文化研究所兼任研究所員 |
| 平成17年度 (2005年) | 人権問題防止対策委員会 教務委員会 教職課程担当者会議 FD問題検討委員会 密教学科主任 密教文化研究所兼任研究所員 |
| 平成18年度 (2006年) | 入学試験委員会 教務委員会 教職課程担当者会議 FD問題 検討会議 密教学科主任 密教文化研究所兼任研究所員 科目等履修生選考会議 |
| 平成19年度 (2007年) | 入学試験委員会 教務委員会 教職課程担当者会議 FD 問題検討会議 密教学科主任 大学院委員会 密教文化研 究所兼任研究所員 学生部協議会 カリキュラム検討委員 会 宗教教育担当 科目等履修生選考会議 |
| 平成20年度 (2008年) | 教務委員会 学生部協議会 (宗教教育担当) 密教学科主任 別科主事 密教文化研究所兼任研究所員 |
| 平成21年度 (2009年) | 大学院委員会 教務委員会 学生部協議会 (宗教教育担 当) 自己点検・評価運営委員会 人権教育研究会 図書 館協議会 密教文化研究所兼任研究所員 密教文化研究所 協議会 文学部改組に関わる全学協議会 教員資格審査委 員会 大学院文学研究科長 |
| 平成22年度 (2010年) | 大学院文学研究科長 大学院委員会 教務委員会 学生部 協議会 (宗教教育担当) 密教文化研究所協議会 密教文 化研究所兼任研究所員 教員資格審査委員会 |

| | | | | | | |
|-----------------------------|-----|------------------------|---|----|------|----------------------|
| 所属 | 文学部 | 職名 | 教授 | 氏名 | 乾 仁志 | 大学院の授業担当の有無 (有) |
| 教育活動 | | | | | | |
| 教育上の主な業績 | | 年月日 | 概 要 | | | |
| 1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) | | 2000. 4- (平成12年4月-) | 講義のはじめには、講義に関する研究文献リストについては、できるかぎり、整理したものをコピーして受講生に配布し、勉学の参考資料として利用できるようにしている。 | | | |
| | | 2000. 4- (平成12年4月-) | 授業で取り扱う曼荼羅など図像に関するものは、コピーやスライドを利用して具体的に理解できるようにし、高野山霊宝館や各地での展覧会がある時には、受講生とともに実物を実見する機会をもつよう努めている。 | | | |
| | | 2001. 4- (平成13年4月-) | 受講生の勉学意欲を促進するために、インターネットを利用して、Web上で公開されている文献資料や図像遺品を蒐集する機会をもっている。 | | | |
| 2. 作成した教科書、 教材、参考書 | | 1990. 4 (平成2年4月) | 「初級サンスクリット文法提要」 | | | |
| | | 1995. 12 (平成7年12月) | 「『初会金剛頂経』所説のマンダラについて(前)」 | | | |
| | | 1997. 1 (平成9年1年) | 「『初会金剛頂経』所説のマンダラ(後)」 | | | |
| | | 2000. 4 (平成12年4月) | 「『金剛頂経』の概要」 | | | |
| | | 2001. 2 (平成13年2月) | 「『初会金剛頂経』に関する覚え書」高野山大学論叢36 | | | |
| | | 2002. 4 (平成14年4月) | 「密教経典一大日経・金剛頂経・理趣経一」(コピー配布) | | | |
| | | 2002. 6 (平成14年6月) | 「『理趣経』の諸本とその成立」(コピー配布) | | | |
| | | 2002. 6 (平成14年6月) | 「初級チベット語文法」(コピー配布) | | | |
| | | 2004. 8 (平成16年8月) | 『マンダラの瞑想と儀礼』高野山大学 | | | |
| | | 2007. 4 (平成19年4月) | 「真言宗のお経」高野山専修学院 (コピー配布) | | | |
| | | 2009. 4 (平成21年4月) | 『授戒の栞(改訂増補版)』高野山専修学院 | | | |
| 3. 教育方法・教育実践 に関する発表、講演等 | | | | | | |
| 4. その他教育活動上 特記すべき事項 | | | | | | |